

平成 16 年 3 月 12 日

文化・芸術の発信にさらなる進化 西口野外ステージに開閉式ルーフが完成

14 日（日）、池袋西口公園（西池袋 1-8-26）内野外ステージで、開閉式ルーフの完成を記念した披露式が行われる。式典と併せて、ミュゼ・ダール吹奏楽団による演奏が行われる。（14：00～15：30）

池袋西口公園は JR 池袋駅西口駅前という立地とともに、東京芸術劇場にも隣接し、文化的行事から商業催事まで幅広い各種のイベントが開催される多目的公園として親しまれているほか、若者たちの待ち合わせや憩いの場として、一日中賑わう。

この、西口公園に野外ステージがお目見えしたのは平成 14 年。「文化の風薫るまち」をキーワードに、西口公園から新たな文化芸術を発信しようと、地元の池袋西口商店街連合会と立教大学の卒業生達の働きかけで、区内の商工団体などが加盟する「元気な豊島をつくる会」（会長：渡辺輝東京商工会議所豊島支部会長）が主体となり建設、同年 5 月に区に寄贈された。

寄贈されたステージの設備は最小限のものに留まっていたため、それを発展・進化させていくことは地元の強い要望であった。今回開閉式ルーフが完成したことによって、演奏するバンドや劇団は、雨風を気にせずに、のびのびと演奏したり、演劇を上演することが出来るようになる。

このようなハード面の進化に加え、ソフト面での、充実・進化を図るため区は平成 16 年度から、野外ステージの活用事業をスタートさせる。既に行われている「BUKU-ROCK FES」など規模の大きなイベントでの活用だけでなく、平日の昼休みの時間帯などに定期的にコンサートを行なうことによって、街を行きかう人々が気軽に文化・芸術に親しむ機会を増やすとともに、地域のイメージアップを図るのがねらい。また、区民や学生など音楽活動を行っている団体に、発表の機会を提供することも目的の一つで、5 月から 11 月まで月 1 回、区内の東京音楽大学学生による金管アンサンブルや区内の大学音楽サークルによる演奏、東京消防庁音楽隊や警視庁音楽隊などの演奏を予定している。

ソフト・ハードの両面から進化を続ける西口公園野外ステージによって、池袋のまちは変わり続けていく。

【ミュゼ・ダール吹奏楽団】

1999 年 4 月発足。現在約 60 人の団員を有し、社会人及び学生で構成。毎週日曜日に主として西部区民事務所（千早 2-39-3）で練習を行っている。

詳細：文化デザイン課

ここのボタ
ンで屋根開
閉操作



通常はこの状態
開けた状態

ここの棒で
横カーテン
開閉操作



全部閉めた状態

